

令和2年3月26日

鳥羽市議会議長 木下順一 様

文教産業常任委員長 河村 孝

### 文教産業常任委員会行政視察報告書の提出について

鳥羽市議会文教産業常任委員会では、令和2年2月17日(月)～2月18日(火)に兵庫県養父市「国家戦略特区の取り組みについて」と京都府久御山町「のってこタクシーの取り組みについて」行政視察を行いました。

各委員の報告書をもとに主な視察内容を次のとおりまとめました。今後、本市議会において、調査研究の参考としたいと考えます。

#### 記

##### ・中山間農業改革

養父市では、人口減少と高齢化の進行や農業の担い手不足と耕作放棄地の増加からの農地が守れなくなりつつあり、問題解決につながる環境づくりとして国家戦略特区の申請を行った。農業委員会と市の事務分担、農業生産法人の要件緩和（役員要件）、企業による農地取得の特例、農業への信用保証制度適用、農地レストラン設置に係る特例を実施し、特区として様々な規制緩和がされ、特区制度を活用した企業による営農や耕作放棄地の再生等、農業改革を進めている。

##### ・自家用自動車の活用拡大

養父市では農業改革のほか、道路運送法の特例として、自家用自動車による観光客を含めた旅客運送ができるようになった。自家用有償観光旅客等運送事業（通称：YABUKURU）はバス・タクシー会社、観光関連団体、地域自治組織、行政が一体となったNPO法人により運営され、現在、登録されている市民ドライバーは16名である。市内全域ではなく、あくまでもタクシーの空白地で利用することができる制度であるが、市民同士が助け合う仕組みづくりがされている。

##### ・デマンド乗合タクシー

久御山町では、コミュニティバスを運行していたが、委託料約3,800万円が必要となっており、さらにバスの運行を継続するために、新たな車両購入費用として約3,200万円が必要とされていた。利用者数や費用面からデマンド乗合タクシーへ移行することになった。デマンド乗合タクシーに移行することで、約600万円まで費用が削減できた。車両はタクシー事業者所有のものを使用するため、初期費用が抑えられる等のメリットが見られ、時間やエリア等利用制限はあるものの利用状況に応じた乗り方ができる。

※各委員の視察報告については別紙の通りです。

## 行政視察報告書

文教産業常任委員会委員長 河村 孝 様

文教産業常任委員会委員 河村孝

<b>視察月日</b> 令和2年2月17日(月)～2月18日(火)
<b>視察先及び視察目的</b> 2月17日(月) 兵庫県養父市 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため 2月18日(火) 京都府久御山町 のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため
<b>説明者</b> 養父市 羽瀧 企画総務部 企画政策課長 兼 国家戦略特区・地方創生課長、圓山 産業県境部 農地政策課長 兼 農業委員会事務局、谷 議会事務局長 久御山町 西田 事業建設部担当部長、吉田 新市街地整備室長、阪田 新市街地整備室課長補佐、高味 議会事務局長、田中 議会事務局次長
<b>参加者</b> 委員長 河村 孝 副委員長 瀬崎伸一 委員 南川則之、濱口正久、山本哲也
<b>成果・所感</b> <b>養父市</b> 国会戦略特区を活用した規制改革を推進 ① 農業委員会と市の事務分担 ② 農業生産法人の役員要件の緩和 ③ 企業による農地取得の特例 ④ 農業への信用保証制度適用 ⑤ 農家レストラン設置に係る特例 ⑥ 旅館業法施行規則の要件緩和 ⑦ 高齢者等の雇用の安定等に関する法律の特例(シルバー人材センター会員の就業時間の拡大) ⑧ テレビ電話による服薬指導の特例 ⑨ 過疎地域等での自家用自動車の活用拡大(YABUKURU)

特に本市における今後の参考となり得る事業が⑨のやぶくるであった。

タクシー事業者、観光関連団体、自治組織、賛同者、行政などが一体となって NPO 法人 養父市マイカー運送ネットワークを立ち上げ交通弱者や観光客の交通手段として自家用車を用いて運用を行なっている。自家用車の活用拡大、市民のドライバー登録（現在 16 名）、事業スキームなどは、来年度策定予定の地域公共交通網形成計画において大いに参考になると考える。

## 久御山町

デマンド乗合タクシー（のってこタクシー）

### 事業内容

町内をひとつのエリアとして電話予約の上、地域の集会所等に設置した各停留所からその他の各停留所間を移動が出来る。但し路線バス運行ルートに係る停留所には利用制限がある。又近くの停留所に予約があった場合は、乗り合いに効率的な運用を行う。

### 経緯

当初バス運行事業者の赤字路線撤退によって生まれた公共交通空白地域を対象に平成 16 年に巡回バス（のってこバス）が運行された。しかし利用者数が伸び悩み事業に係る行政コストも肥大化し費用対効果の面からも抜本的な見直しが求められた。その後地域公共交通会議、公共交通調査特別委員会、各自治会などの様々な協議を経て平成 27 年からのってこタクシーの運行が始まった。

### 所感

のってこバスからのってこタクシーに事業内容を切り替えた事によって行政コストを 3,800 万円から 600 万円に削減した。本市の福祉バスの運行、高齢者移送サービス、かもめバスの運行路線を考える上で参考のひとつになるだろう。又養父市のやぶくる事業と同様に地域公共交通網形成計画策定に広い視野で大いに参考にするべきである。

## 行政視察報告書

文教産業常任委員会委員長 河村 孝 様

文教産業常任委員会副委員長 瀬崎 伸一

<b>視察月日</b> 令和2年2月17日（月）～2月18日（火）
<b>視察先及び視察目的</b> 2月17日（月）兵庫県養父市 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため 2月18日（火）京都府久御山町 のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため
<b>説明者</b> 養父市 羽瀧 企画総務部 企画政策課長 兼 国家戦略特区・地方創生課長、圓山 産業県境部 農地政策課長 兼 農業委員会事務局、谷 議会事務局長 久御山町 西田 事業建設部担当部長、吉田 新市街地整備室長、阪田 新市街地整備室課長補佐、高味 議会事務局長、田中 議会事務局次長
<b>参加者</b> 委員長 河村 孝 副委員長 瀬崎伸一 委員 南川則之、濱口正久、山本哲也
<b>成果・所感</b> <p>今回の視察において、其々の自治体のものをそっくり持ち込む事は不適と感じたが、其々のエッセンスの部分を複合的に取り入れれば、公共交通空白地域が存在する当市の現状を改善する一助となり得ると感じた。特に、養父市において実践中の「市民ドライバー活用」に至るスキームは当市においても有効と感じた。また、久御山町において質問を行ったデマンド乗合タクシーの複数事業者での運営にも、当市の地域特性から鑑み、地域公共交通施策の活路があるものとする。規制緩和の急先鋒たる国家戦略特区認定取得についても今後の鳥羽市の動向を勘案すれば、全市挙げて、大いなる目標として目指していくに値する魅力的な施策であると感じた。</p> <p>委員長はじめ委員各位には、改選後初となる行政視察を大変有意義な学び多き機会として戴いたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>

## 行政視察報告書

文教産業常任委員会委員長 河村 孝 様

文教産業常任委員会委員 南川 則之

<b>視察月日</b> 令和2年2月17日(月)～2月18日(火)
<b>視察先及び視察目的</b> 2月17日(月) 兵庫県養父市 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため 2月18日(火) 京都府久御山町 のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため
<b>説明者</b> 養父市 羽瀧 企画総務部 企画政策課長 兼 国家戦略特区・地方創生課長、圓山 産業県境部 農地政策課長 兼 農業委員会事務局、谷 議会事務局長 久御山町 西田 事業建設部担当部長、吉田 新市街地整備室長、阪田 新市街地整備室課長補佐、高味 議会事務局長、田中 議会事務局次長
<b>参加者</b> 委員長 河村 孝 副委員長 瀬崎伸一 委員 南川則之、濱口正久、山本哲也
<b>成果・所感</b> <b>(兵庫県養父市)</b> 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため行政視察を行ったが、「農業委員会と市の役割分担、農業生産法人の要件緩和と企業による農地取得の特例、養父市アグリ特区保証融資制度、農家レストランの設置に係る特例」など、本市においても十分参考となる事例もあり、研究材料として議会質問にも生かしていきたい。 <b>(京都府久御山町)</b> のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため行政視察を行ったが、久御山町が、コンパクトな町であり、交通手段として、電車等がない町で、バス、車などに依存しているため、のってこタクシー等の活用が見込まれている。説明を聞く中で、利用者数が少ないなどの欠点もある。 本市においては、市内での活用は検討ができるが、浦村地区から堅子町にかけて、集落が点在する地域についての活用は、大変難しいと感じた。鳥羽版デマンド乗合タクシーについても、今後検討していきたい。

## 行政視察報告書

文教産業常任委員会委員長 河村 孝 様

文教産業常任委員会委員 濱口 正久

<b>視察月日</b> 令和2年2月17日(月)～2月18日(火)
<b>視察先及び視察目的</b> 2月17日(月) 兵庫県養父市 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため 2月18日(火) 京都府久御山町 のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため
<b>説明者</b> 養父市 羽瀨 企画総務部 企画政策課長 兼 国家戦略特区・地方創生課長、圓山 産業県境部 農地政策課長 兼 農業委員会事務局、谷 議会事務局長 久御山町 西田 事業建設部担当部長、吉田 新市街地整備室長、阪田 新市街地整備室課長補佐、高味 議会事務局長、田中 議会事務局次長
<b>参加者</b> 委員長 河村 孝 副委員長 瀬崎伸一 委員 南川則之、濱口正久、山本哲也
<b>成果・所感</b> ●養父市 (国家戦略特区の取り組みの先進事例について) 平成16年の合併により30,000人となった人口も減少していく中で、養父市のルーツともいえる「農業」による地域おこしの一環として、耕作放棄地の活用において「国家戦略特区の認定を受け、現在まで「農業」分野以外でも様々な施策を展開している 主なもの ・事務分担 農業委員会と市の事務分担をすることにより、事務処理機関が19日から6日(2018年)へ短縮された ・農業生産法人の要件緩和 ・企業による農地取得の特例 役員要件の緩和や特例により企業が参入しやすくなり、13法人が設立、生産高2億円、

90名の雇用につながった

- ・農業への信用保証制度の適用

- ・農家レストラン設置にかかる特例

農用地区域内に設置できるよう特例措置

- ・旅館業法施行規制の要件緩和

古民家（空き家）を旅館へ活用。フロント設置、業務を、カメラを設置することにより緩和。

- ・シルバー人材の就労に関する法律の特例

就労時間の延長

- ・オンライン服薬指導の特例

3自治体でテレビ電話による服薬指導

- ・過疎地域での自家用自動車の活用拡大「やぶくる」

2018.5/26 から運用開始 初年度 169 件（観光客利用は 20 件）の利用実績（計画の 1/10）

2019 は 251 件の利用（2020.1 月末現在）エリア間の移動ができない事も課題

特区の効果の検証はこれからだが、事業エリアでの評価は高いとのこと

#### 【所感】

特区を取得することにより新たな施策を展開していることは、様々な課題を抱える本市においても独自の取り組みができる可能性をひめており興味深いところであると感じました。また、「やぶくる」の事業においては地域公共交通を考える上で本市においても喫緊の課題であり養父市の事業は参考にすべきと考えます。

#### ●久御山町

（のってこタクシーについて）

- ・デマンドタクシー

バス運行会社の路線撤退による公共交通の空白地対象に域内巡回バスが運用されたが、利用者の減少から自治体等との公共交通会議等を重ね平成27年からデマンドタクシーへ移行

エリア間の移動のため利用しづらく利用者の増加に課題。また今後は、高齢者等が「のってこ優タクシー」への利用の移行拡大が見込まれる。

#### 【所感】

地域公共交通を考える上で、委託料の（バス）3,800万から（タクシー）600万への削減は参考にすべきと考えます。また、エリア間の移動や運航路線等の課題も参考にすべきと考えます。

## 行政視察報告書

文教産業常任委員会委員長 河村 孝 様

文教産業常任委員会委員 山本 哲也

<b>視察月日</b> 令和2年2月17日（月）～2月18日（火）
<b>視察先及び視察目的</b> 2月17日（月）兵庫県養父市 国家戦略特区の取り組みについて先進事例を学ぶため 2月18日（火）京都府久御山町 のってこタクシーの取り組みについて先進事例を学ぶため
<b>説明者</b> 養父市 羽瀧 企画総務部 企画政策課長 兼 国家戦略特区・地方創生課長、圓山 産業県境部 農地政策課長 兼 農業委員会事務局、谷 議会事務局長 久御山町 西田 事業建設部担当部長、吉田 新市街地整備室長、阪田 新市街地整備室課長補佐、高味 議会事務局長、田中 議会事務局次長
<b>参加者</b> 委員長 河村 孝 副委員長 瀬崎伸一 委員 南川則之、濱口正久、山本哲也
<b>成果・所感</b> ○養父市 高齢化や離農により農地が守れなくなってきており問題解決につながる環境が必要であることから特区申請。9つの規制緩和メニューを活用している。多くの提案をしているが、活性化にまでには至っていないのが実情。特区となったことで、企業からたくさん声をいただいている。提案については企業からの提案がほとんど。民主導の次のステージに移りつつある。特区になったことでふるさと納税も増えた。特区が縁となり移住していただいた方もみえる。効果の検証はこれから大学と連携しての検証になる。  主なもの ・農業委員会と市の事務分担 農地取得しやすい環境が整う。耕作放棄地の再生、農地の流動化を促進に。 ・企業による農地取得の特例 13法人が設立され90人弱の雇用につながっている。



- ・旅館業法施行規則の要件緩和  
古民家(空き家)が旅館として再生。
- ・高齢者等の雇用の安定に関する法律の特例  
シルバー人材センター会員の就業時間が引き上げられた。
- ・テレビ電話による服薬指導  
活用例は少ないがオンライン化することで外出が困難な方等に診療機会が確保できる。
- ・過疎地域等での自家用自動車の活用拡大  
自家用有償観光旅客等運送事業(愛称:YABUKURU)をH30年5月にスタート。  
利用者 H30年度:169件(観光客20件)  
令和元年度:251件(1月末時点)  
利用者は低調ではあるが市民が助け合う仕組みは必要。  
エリア間移動ができないことで、観光利用は少ない。  
登録ドライバーは16名。

#### 【所感】

特区をとったことで、民間企業から様々な提案を受ける機会につながっている。行政だけでは解決できない地域課題を企業のノウハウや資金、販路を活用、連携して取り組みきっかけとなっている。

#### ○久御山町

##### デマンド乗り合いタクシー「のってこタクシー」

交通不便地の解消、高齢者の外出支援、公共施設の足の確保を基本原則に平成16年4月から巡回バス「のってこバス」を運用開始。利用者数は伸び悩み、費用対効果からも抜本的な見直しを行い、デマンド乗り合いタクシーへ移行。平成27年12月より運行を開始。利用登録状況 2006人(令和元年12月まで)

利用状況 H28 7,162人 H29 7,759人 H30 8,159人

新設した制度「優タクシー」への移行もある。

運行経費の削減に。

バス委託費等で約3,800万→H30年度 委託料 約600万に

バスの車体の購入費用も抑えることができた。

#### 【所感】

バス、タクシー事業者との兼ね合いもあるので、使い方、ルート、利用時間が限られている。そのため思うように利用登録が伸びていないとのことだったが、交通弱者への課題解決する方法としては有効であるように感じた。制度、仕組みを上手くつくることができれば、鳥羽市においても有効な手段になり得ると感じました。